



2月14日(土) バレンタインデーの本来の目的は、愛や感謝の気持ちを伝える日であり、「何を贈るか」よりも「気持ちを伝えること」が重要視される宗教的・文化的な意味合いを持ちます。日本では女性から男性へのチョコレート贈呈文化が定着しましたが、これは後から広まったもので、本来は恋人だけでなく家族や友人など大切な人へ愛を表現する日とされています。

今日は、男性に女性の気持ちをよく理解してもらう特集です。

「女性脳」(女性の特徴)について

女性は、日常的に過去の出来事を反復する癖があります。例えば夫が無神経な発言をすれば、過去20年分の無神経な発言が一気に浮かんできて何度も腹が立つのです。過去の出来事を反復するのは、子育てや家事のような臨機応変なタスク(仕事・課題・作業)をこなすための才能なのです。女性は過去の出来事から学んだ知恵を大事にするのです。

《仕事》について ① 臨機応変に考えられる。 ② 変化に対応し、要領よく目の前のことに集中できる。 ③ 結論ではなく、経緯から延々と話す傾向がある。 ④ 肩書に無頓着で、見込んだ人なら上司より大切にします。 ⑤ 相手の気持ちに立って発想する。

♡恋愛♡について ① 察してほしい。言う前に分かってほしい。② 話を聞いてほしい。気持ちを話したい、共感してほしい。 ③ 記念日を大切にします。過去を振り返り、未来を想像する。 ④ 労わってほしい。感謝の言葉をかけてほしい。

さらに…①説明が苦手 ②他人の嘘を見逃さない ③直観力が働く

*心細い思いや辛い思いをした後は、「大変だったね」、「君のおかげで助かったよ」と声をかけることが大切です。「わかっているなら、やりなさいよ!」誰が言ったか、お分かりでしょう。

*2月は12月と1月の反動で消費が落ち込むため、恵方巻とバレンタインチョコで消費拡大をねらっているそうです。まんまと乗っています。

2月16日(月) 先週「子どものレジリエンス」について先生方で研修をしました。

子どものレジリエンス(立ち直る力・しなやかさ)とは、ストレスや逆境を乗り越え、再び前を向く力です。これは生まれつきのものではなく、自己肯定感、前向きな思考、信頼できる人間関係(特に親の愛情)によって後天的に鍛えられます。筋力トレーニングと同じです。

◎失敗を経験させる: 命に関わらない失敗であれば、先回りして手を出さず、自力で対処する機会を与える。

◎「プロセス」を具体的に褒める: 結果や能力(「頭が良いね」)ではなく、努力や工夫の過程(「頑張ったね」「工夫したね」)を褒める。

◎安心できる関係を築く: 温かいスキンシップと会話で、「何があっても大丈夫」という安心感を伝える。

◎感情を言葉にする: 落ち込んだ時に「悲しかったね」と感情を代弁し、感情とうまく付き合う方法を教える。

◎ポジティブな側面に目を向ける: 「どうすればできるか?」を一緒に考え、前向きな捉え方を促す。



「耐える力」「我慢」を教える

甘やかされ、わがままいっぱいになった子

どもは、何か思い通りにならないことがあると、たちまちパニック状態になります。しかし、世の中は一步家の外に出ると、むしろ思い通りにならないのが当たり前です。誰しも学校、地域、職場と、世間の仕組みや周囲の人々と折り合いをつけ

ながら人間的に成長していくものです。

家庭は子どもを育み、守ると共に、社会に適応できるように準備する場です。そのために欠かせないのが、耐える力をつけてやることです。

豊かな時代だからこそ、我慢することを覚えさせる必要があります。それが自分をコントロールする第一歩です。そのためにも、まず大人が慎む姿勢を示さなければなりません。毎日の生活に追われ、大事なことを忘れがちです。自分のことしか考えられなくなり、相手のことを推しはかる奥ゆかしさとか謙虚さを思い出させてくれる言葉があります。言われるとなるほどと思うことがたくさんあります。



2月17日(火)

冬季オリンピック

日本人選手の連日のメダルラッシュで盛り上がっています。寝不足気味ですが、感動で胸が熱くなり、ついつい見てしまいます。半面、日本人選手に対する SNS での誹謗中傷が約6万2000件もの投稿が確認された。

(読売新聞2月18日)

「心ない言葉をアスリートに浴びせることは尊厳を傷つけ(選手から)力を奪ってしまう。やめてもらいたい」と日本選手団の団長がコメントしました。日本人はいつからそうになってしまったのでしょうか?

武士道精神

「尋常に勝負、勝負、名を名乗れ！」

「後ろから切りかかるとは、この卑怯者め！」

「卑怯」を教えよ

いじめに対して何をなすべきか。「カウンセラーを置く」などという対処療法より、武士道精神に則って「卑怯」を教えないといけない。「いじめが多いからカウンセラーを置きましょう」という単純な論理に比べ「いじめが多いから卑怯を教えましょう」は論理的でないから、国民に受けません。しかし、いじめを本当に減らしたいなら、「大勢で一人をやっつけることは文句なし卑怯である」ということを叩き込まないといけない。たとえ、いじめている側の子どもたちが清く正しく美しく、いじめられている側の性格がひん曲がって大嘘つきだとしても、「そんな奴なら大勢で制裁してもいいじゃないか」というのは論理の話で、「卑怯」というのはそういう論理を超越して、とにかく「ダメなものはダメ」だということです。

この世の中には、論理に乗らないが大切なことがある。それを徹底的に叩き込むしかありません。いじめをするような卑怯ものは生きる価値すらない、ということをとことん叩き込むのです。

「国家の品格」 藤原正彦著より

極端な論調ですが、この本はベストセラーになりました。高市首相は「強い日本を取り戻す」と言って国民から多くの支持を得ました。その根底にある日本人としての品格、長い歴史と伝統の中で培ってきた大事なことを見直すことです。それができるのが教育だと思います。

2月18日(水)

避難訓練

避難時間7分48秒 夏は5分程度で避難完了

訓練の内容が変わり、1ヶ月に1回実施するようになりました。きっかけは東日本大震災です。それまでも学校などでは避難訓練をしていました。今は従来のシナリオ通りに逃げる形式から、自分で危険を予測し判断して行動するアップデート型へ劇的に進化しています。

園でも毎回、出火場所、避難場所、避難口、時間帯を変えて実施しています。予告なしの抜き打ちもあります。また、火災だけでなく、地震、洪水、複合災害を想定した訓練も実施しています。その都度、先生は放送を聞いて、子どもたちの状況を把握し、どの非常口から出て、集合場所にいち早く避難するか判断しなければなりません。特に未満児の学級は大変です。

自分勝手な行動を取ったり、先生の話をしちゃんと聞けない子がいると非難が遅れます。特に冬期間は、防寒着を素早く着て、長靴をはかなければなりません。ある程度の年齢になると普段から一人で身支度ができるようにしておかなければなりません。身支度が素早くできるということは、自分の命や安全を守ることになるのです。こども園での生活が全て自分を守ることに繋がります。避難訓練で子どもたちの成長が分かります。

避難した後、園長の話聞いて解散するのですが、火災が治まった、地震は起きたが被害はない、洪水警報は出たが解消されたということで教室に戻ります。ところが被害が大きい場合は、保護者に迎えに来てもらうことになります。これは保護者の協力が必要なので訓練することが難しいです。駐車場の誘導方法や園児の待機場所など不測の事態を想定しての計画も検討しています。子どもたちの命と健康を守ることがこども園の最大の使命です。



2月20日(金)

愛着障害

親子の間のしつけが成り立つためには、愛着関係（この人に頼れば大丈夫と思える関係）が成立していることが必要です。

◆しつけは、子どもの側からすれば、自由が奪われ、強制される行為です。わがまま好き放題だった時期から一転して、親が理不尽な課題をどんどん押し付けると、子どもは、「大好きな親から見放されたくない」と、理不尽を受け入れることとなります。それだけ親から愛情を失ってしまうのが怖いのです。◆こども園や学校では、親代わりの他人（教師）が、こうしたしつけに加わります。親子の愛着がしっかりできている子どもは、他人でも愛着関係が成り立ちます。しかし、幼いころに長期にわたって親から十分な愛情を与えられなかったことで起きるのが「愛着障害」です。「勤の強い子」や「執着心の強い子」「神経質な子」な子は特に心配です。すぐに不満を口にする子は良いのですが、がまん強くて気性の激しい子で、長期間我慢し続けて拳句、突然怒りを爆発させ、後々まで親に対する恨みを引きずることがあります。大人になってから爆発してしまうと、人生の道を誤ってしまうこととなります。◆やっかいなことに愛着障害には「コミュニケーションがとりにくい」「人とのかかわりを持ちにくい」など、自閉症と似た症状もあるので、専門家でも分かりにくいことです。自閉症は、親の愛情不足などの環境要因で起こるものではなく、親の接し方を変えても変化があまりありません。しかし、愛着障害の場合は、親の接し方でみるみる変わっていきます。愛着障害は自閉症と違って、親が話をよく聞いてあげたり、丁寧にかかわってあげたりすることで改善されることが多いのです。◆子どもに気になる症状がある場合や不登校などの問題がある場合は、まず、親子の対話やスキンシップの時間をしっかり持つことが大切です。

◆何も特別なことをするわけではありません。 普段の生活の中で、抱っこしたり、子どもの傍にいて話をしたり、一緒に遊んであげたりすることです。こども園でも子どもと先生との愛着関係づくりに努めていますが、親の代わりはできません。



2月24日(火)

勝利の女神はまたも振り向いてくれなかった

練習も靴も情熱も…すべてを1500mに注いだ、「金」は遠く

スピードスケート女子1500mで高木美帆選手は6位に終わり悲願の金メダルにまたも届かなかった。

4年に一度の冬季オリンピックが終わりました。この2週間、歓喜や安堵、無念、ぼう然と勝者と敗者が織りなす喜怒哀楽に心を揺さぶられました。金メダル確実と言われた選手がプレッシャーという五

輪の魔物に魅入られて惨敗したかと思えば、初出場最年少金メダリストが誕生しました。天候に左右されたり、採点方法に疑問符が出たり、これがオリンピックなのかと思いました。

今回は特に、スキージャンプ混合団体で銅メダルを獲得した高梨沙羅選手の絶望から喜びの涙、重ねた精進の結晶に感動しました。浅田真央選手に憧れてフィギュアスケートを始めた選手が銅メダルを獲得しました。ノルディック複合の選手は、「自分たちがオリンピックで活躍することで子どもたちに関心を持ってもらいたい」とコメントしました。今回はイタリア開催で夜中の live 放送でしたが、これから何回もダイジェストが放送されますので、見逃した方は見てください。

「100 回の説教より、感動する名場面の方がずっと効果がある」

「園長先生、ぼく見てたよ！お父さんが『お前もスノボやってみるか？』と言ったよ。』 オリンピックは絶対見てほしい。感動する場面に出会ったり、本物を見たり、聞いたり、体験することは、幼児期にはとても大事なことです。ただし、親が感動しないと子どもは感動しません。

若い選手が次々出てきました。4年後がまた楽しみでなりません。ただ残念なのは、選手への誹謗中傷が後を絶たなかったことです。信じられません。

～・～質屋の目利き～・～

持ち込まれた品物が本物か偽物か、品質、そして、その価値を総合的に判断する専門的な能力が必要です。その目利きを高めるためには、偽物をは一切見ない、本物を徹底的に見て目を肥やすそうです。

2月25日(水) 「15分カット」 1000円床屋さんが1300円になり、4月からは1400円になるらしいのですが、物価高でしょうがないと諦めるしかありません。それでも安いので土日は込み合っていて待ち時間が結構ありました。

お母さんが横にぴったりついて4・5歳の男子がカットされていました。理容師さんが「これくらいでどうですか？」と母親に確認すると「う～ん、ここはもう少し…」と細かく注文を付けるので、何度も何度も確認していました。前回も同様な親子を見ました。今はこれが当たり前なのかと感心して見ていました。終わるとお母さんは、見ていた絵本を片付けるように言いました。さすが細かいお母さんだと思いましたが、その子は、逆さまで背表紙を奥にして棚に入れました。そこは注意なしです。それを見ていた次の女の子がその絵本を元通りに直しました。その子も隣にお母さんが座っていました。



絵本（宇津美和文庫）

宇津先生からたくさんの絵本の寄贈がありました。こども園に絵本は欠かせません。

◎絵と物語から状況をイメージすることで、想像力や思考力が刺激され、自分とは異なる視点や感情を理解する力が養われます。

◎親子の絆・コミュニケーションが図られます。スキンシップをとりながら同じ物語を共有することで、深い絆が生まれます。物語についての会話が、子どもの表

現力を伸ばします。

◎絵本の読み聞かせは、いつからでも OK: 生後数ヶ月からでも、早すぎることはありません。

◎絵本に対象年齢が書いてありますので、参考に選ぶといいでしょう。

内容やキャラクターなど、子どもが興味を持つもの、何でも繰り返して読むのもいいことです。

◎親も楽しむ: 親が楽しむ姿勢が、子どもに物語の楽しさを伝えます

*何度も何度も読んでいからボロボロになっている、それくらい大好きな絵本がある。と言っていた子がいました。そんな絵本と巡り合いたいものです。



2月26日(木)

お友だちと手をつなげるようになりました。



2月の園内研修は、1年間の保育の成果について交流しました。こども園は、0歳から5歳まで一貫した保育・教育を目指しています。それぞれの年齢、発達段階に応じた活動をしています。同じ年齢でも一人一人個性が違うので個に応じた援助が求められます。保育の質の向上には、先生方の研修は欠かせません。

0歳ひよこ組の濱田先生から「お友だちと手をつなぐことができるようになりました。」と報告がありました。手をつなぐのは、園では当たり前のことだと思ってしまうのですが、集団生活の中で、毎日毎日の援助の繰り返しの中でできるようになるのです。家庭ではできないことです。

ひよこ組の部屋からゆうぎ室まで数メートルしかありません。入園当時は、先生が抱っこしていました。それが段ボールのマイカーに乗って引っ張られて移動していました。それが今では、お友だちと手をつないで歩いて行けるまでに成長しました。手をつないで歩けないと散歩に行けません。集団行動ができません。手をつなぐとは自分の安全を守るために必要なことなのです。

また、手をつなぐと、ストレス軽減、安心感、信頼関係の向上をもたらします。物理的・心理的距離を縮めるだけでなく、鎮静効果（子どもが泣いている時は、手を握ってあげると苦痛が軽減される）や親密感の強化、さらには体温上昇といった心身によい影響を与える最高のスキンシップです。恋人同士が手をつなぐのはこのためです。私も最近、奥さんと手をつなぎます。それは冬道で転ばないようにするためです。

お楽しみ会

0~2歳児さんは、3月3日(火)の「お楽しみ会」に向けて練習に励んでいます。1年間の成長を見届けてください。オリンピック以上に感動します。ただし、練習では一生懸命踊っている子が、本番突如固まってしまうこともあります。これも成長の表れです。

2月27日(金)

3月1日(日) 訓子府高校の卒業式に参列します。中学校は13日(金)、小学校は19日(木)、こども園の卒園式は23日(月)

北海道特に管内の小学校の卒業式では、卒業生は中学校の制服を着る習慣があります。ところが最近、派手な衣装に変わってきて、内容も式自体がセレモニーではなくイベント化しています。*結婚式と結婚披露宴は違います。



～改めて卒業式を考える～

卒業式は、教育課程の修了を認定し、卒業証書を授与することが第一の目的です。これまでの生活を振り返り、感謝の気持ちを育むとともに、義務教育や学校生活の締めくくりとして、自立と自信を育む「儀式的行事」のねらい(学習指導要領)があります。そのために何日も前から卒業式の練習をします。

～具体的な意味とねらい～

1. 学業の修了と成長の認定「卒業」の節目: 義務教育の課程をすべて終了したことを認め、学校長から卒業証書を授与される。

成長の実感: 学校生活を振り返り、自身の成長や達成感を実感する。

2. 新しいステージへの準備と旅立ち中学校への覚悟：次のステージに向けて、身も心も引き締め、自立心や準備の姿勢を促す。

未来への期待：寂しさを抱えつつ、新しい環境や生活への希望を持つ。

3. 感謝と絆の再確認し、支えてくれた人への感謝：教職員、保護者、地域社会へ「ありがとう」を伝え、周りの存在の大きさに気づく。

友情と団結力：在校生や友人との思い出を振り返り、絆を深める。

4. 厳粛な雰囲気による礼儀とマナーの経験：非日常的な「厳粛」な雰囲気を体験し、礼儀や集団行動の規律を学ぶ。

小学校の卒業式に中学校の制服を着る習慣は、こうしたねらいから生まれたものだと思います。またさまざまな儀式などに参加するときも中学高校生は制服がフォーマルだからです。

来賓として他校の卒業式に参列することがあります。何のために参列するか、卒業式を見れば、その学校の教育力が分かるからです。

卒業式は当日だけの儀式ではなく、それまでの取り組みが大事だということです。決して「映える写真」を撮るためのものではありません。

こども園の卒園式は、小学校の卒業式のねらいに準じています。



3月2日(月)

端切れのひな人形

「3月4日にね、おひな様の片付けするよ。早くしないとお嫁に行けないんだって？」

「ひな祭り」、「桃の節句」、「弥生の節句」などとも呼ばれています。これは千年も前の昔、中国から伝わってきたものです。昔は、今のような「おひなまつり」と違って、悪い病気にかからないための行事でした。粗末な紙人形を作り、その人形で体をなでてお祓いをしてから、川へ流してしまうと病気にかからないと考えられていました。これを「ひな流し」といいますが、後に流される「おひなさま」のほかに、飾る「おひなさま」を作りお祭りするようになりました。これがひな祭りの始まりです。

今では立派で豪華なひな人形がデパートに並べられています。それをおじいちゃん、おばあちゃんが孫のために買うようになりました。

ひな人形を買う余裕のない我家では、3月3日が近づくと妹は母と一緒にハギレを使ってひな人形を作りテレビの上に飾っていました。母は娘に買ってやれなかったのが、孫のためにと年金を貯めて狭い家には不釣り合いのひな人形をそろえてくれました。

節分、桃の節句、端午の節句は、それぞれに自然をたたえ、生物をいつくしみ、子どもの健やかな成長を願う意味が込められています。高価なものをそろえるというだけでなく、こうした日本人の節目を大切に作る風習は、各家庭で大事にして、次の時代を担う子どもたちに受け継ぎたいものです。

最近のひな人形は、5段、7段飾りは姿を消して、コンパクトになりましたが、スポンサーの祖父母は変わりません。バレンタインやハロウィーンより、日本伝統の節句を大切にしてほしいものです。

～3月3日～「おひな様だから、今日のごちそうだよ」とお姉ちゃんに言ったら、「男は関係ないの！」と言われた。「そしたら、5月5日は、女は関係ないんだよ。」と言ったら「バカだね。『子どもの日』だもの、男も女も一緒でしょ」と勝手なことを言っていた。

『桃の花』言葉は、「気立てがよい」です。

3月5日(木)

おたのしみ会「かわいいね～」連発！

来賓の方から、「毎年、楽しみにしています。小さい子の踊る姿を見ると心が癒される。園長先生は、毎日見られるからいいですね。」と言われました。



「入園して間もない子ども、あそこまでできるのですね。1歳児・2歳児を続けて見ると子どもたちの成長の様子がよく分かりました。子どもってすごいですね。」と感想を述べていました。

3月1日(日) 訓子府高校卒業式に参列して 【卒業式のしおりから】

昭和23年北海道北見高等学校訓子府分校(訓子府村立)として創立。77年の歴史があります。昭和27年11月1日に校名を変更、北海道訓子府高等学校となりました。

【卒業生数の推移】

昭和52年の115名が最高で、平成26年から30名を切るようになりました。平成29年、30年と15名になり、その頃から町が支援するようになり、令和元年31名、令和2年28名と回復しましたが、令和4年と令和6年には、また10名に減りました。このままだと廃校になる危機感から、給食の提供やスクールバスの運行などの手厚い援助と校長先生と教育長が入学生を確保するため北見市内の中学校を回るようになると、平成7年、8年には20名、26名に回復しました。

【これまで何度も他校の卒業式に参列しましたが、感動したのは初めて】

答辞を務めた生徒は、北見北小の校長だった時の3年生で、訓高のオープンスクールで訪れたとき「校長先生ですよ。」と声をかけてくれた子でした。「よく覚えていたね。訓高の生活は、どうですか?」と聞くと「めっちゃ、楽しいです。」と明るく答えてくれました。その子が生徒会長になり、卒業生を代表して答辞を読むまでになりました。毅然とした態度で読み始めましたが、途中から言葉が詰まり、涙声になりながらも最後まで読み切りました。AIで文章を作成したわけではないでしょう。アナウンサーのような流暢な語りではなかったけれども、高校生活を振り返り、周囲の人たちへの感謝を自分の言葉で綴っていました。読み終わると校長先生が大きく拍手を始め、それが会場全体に広がりました。

帰りに「立派な答辞で感動したよ。」と声をかけ、進路を訪ねると「保育士になる専門学校に進みます。」と答えました。*昨日の夕方、おひな様を片付けました。わくわく園も卒園式の準備が始まりました。

3月9日(月) 「心の強い子」 ~自分の道を切り開ける子に育てる~

心が弱いと新しい環境に馴染めない、小学校生活に馴染めない

子どもの心を強くすることは、挫折しても負けない気持ちの強さを育てるということ、周囲の安易な空気に流されない心を育てるということです。自分の行くべき方向が見つかったら、迷うことなくその道を進むことができる。そういうへこたれない心の強い子だけがいつか自分の夢を手繰り寄せます。

人間は打たれ強くなくてもいいのです。打たれ弱かったら、その弱さをカバーする方法を自分で見出せばいいのです。

とても素晴らしい才能を持ちながら、がまんしてそれを育てることをしないで、安易な方向に流れてしまって結局芽を出せなかった人は数知れません。

がまん力のない子は、順番を待つことやルールを守ることができず、小学校やこども園での集団生活に支障をきたしたり、欲しいものがあつたときに、「買って、買って!」とダダをこねたり、自分の思い通りにならなければ、いわゆる「キレる子」「わがままな子」になってしまいます。そうならないためにも、幼少期の子どもに「がまん」を教えることです。

4歳ころから自制心が育ち始めます。頭ごなしに禁止するのではなく、なぜダメなのか説明し、気持ちを切り替えさせる。待てた時は褒め、徐々に我慢する経験を積み重ねることです。こども園ではそうしています。

がまん力、そして、心の強さは、親が子どもに与えることのできる素晴らしい贈り物なのです。是非、お子さんのがまん力のある、そして、心の強い子に育ててほしいものです。その子の未来は開けていくはずですよ。

先週、年度末反省会議がありました。その中で、保護者アンケートでも指摘のあったコドモンの活用について、これまで「お知らせ一斉配信」で学級の様子を配信していましたが、それを写真を何枚でも掲載できる「保育ドキュメンテーション」で配信するようにはという意見があり、検討することになりました。

3月10日 **なぜ、園だよりを出すのか？**

学校便り(園だより)を読む保護者は少ないから、出しても無駄?」と言われたことがありました。

斜里朝日小学校と網走潮見小学校時代、学校便りを中心に載せていたホームページが全国小学校HP大賞の優秀校に選ばれたことがありました。その審査委員の大学の先生が、「読む人(観てくれる人)が3割いれば十分です。そして、出し続けることが大事です。その3割の保護者が学校の見方(応援団)になってくれます。」と教えてくれました。

4月、校長室の窓をたたく中学生がいました。3月に卒業した女子です。「うちのばあちゃんが、『校長先生のお便りが読めなくなって残念だ。』と言うから、『私がもらってきてあげる。』と言ったんだけど、いいですか?」言うのです。こんな読者がいたのかと思うと心がホットステーションになりました。

～学校(園)便りを続ける～

「校長先生のお便り読んでいますが、いつも上から目線で、その通りにはならないことの方が多いと思います。」「今から、学力や不登校、問題行動、校則のことを言われても、先のことだから…」と言われたこともありました。その時になってから情報を得ても遅いのです。転ばぬ先の杖です。

教育(子育て)は、思い通りにはいかないものです。教育学者や子育ての専門家が言っていることを紹介することで、少しでもお役に立てればと思っています。

また、「最近、転ばないように妻と手をつないで歩いている。」と書いたら、「一人転んだら、二人とも転ぶから気を付けてくださいね。」と忠告してくれたお母さんがいました。お気遣いに感謝します。

紙面で配布していた時、「お便りを製本するので今までの分を持ってきてください。」とお願いすると、醤油をこぼした跡やごはん粒の付いた通信が戻ってきたことがありました。「夕飯を食べながら読んだのかな?」と思ってほっこりします。今は紙面から画面で見る時代になり、考え方も変わってきました。「年寄りのつぶやきは、今の若い人には響かないかな?」と思い始めました。もう潮時です。

お世話になりました。3月をもって退任します。

私も古稀を迎え、教育長に「今年こそ後任を見つけてください。」と頼んでいたところ、訓中で校長を務め、わくわく園の園歌の作曲者である小野朋之校長が来てくれることになりました。頼りがいのあるとても優秀な方なので打ってつけの人物だと思っています。

縁もゆかりもない訓子府から声をかけていただき、1~2年でお暇しようと思っておりましたが、もう5年になりました。◆冬には、遙か遠く大雪の山々を望み、◆春、レク公園の桜園に癒され、◆夏は小麦の黄、ジャガイモ花の白、ビートの緑、縞々模様の畑は、美瑛の丘に負けていません。◆秋になると、無数の玉ネギコンテナが畑に並び、車中が玉ねぎの臭いで充満するも、これぞ訓子府と思いながら通いました。

「自然が豊かだと人の心も豊かになる」

皆さんに本当によくしてもらい、すっかり訓子府が気に入ってしまい、つい長湯してしまいました。皆さんからのご厚情に厚く感謝申し上げます。

最後の「書画展」を公民館ロビーで3月22日(日)まで開催しています。訓子府に感謝を込めた新作も数点加えましたので、よろしければ足を運んでいただければ幸いです。

*新作です⇒

